

6. みかん

現状と課題	目指すべき姿
本県のみかんは、主に中山間地域で栽培が営まれているが、産地では高齢化が進んでいるため、今後、出荷量の減少などによる産地の縮小が懸念されており、省力化、軽労化をより一層推進する必要がある。	生育、気象などの情報から生産量、品質を管理するシステムや土壌水分や樹体ストレスに応じた灌水制御システム、家庭内選果を削減するプレ選果システムなどの導入による産地の維持、拡大

作業	導入する技術とその効果	必要経費
営農一般	 <p>営農支援システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 営農支援システムの活用により、生育や気象情報から果実生産量や果実品質、病虫害防除を適切管理 	営農支援システム：部会加入960千円/年 通信費：1千円/月
灌水	 <p>灌水制御システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 灌水制御システムにより最適な水分ストレスに誘導するため灌水量を制御し、高品質果実を安定生産 灌水管理の省力化 	灌水コントローラー：1,500千円
防除	 <p>ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローン防除により、急傾斜地での防除作業の負担軽減と作業時間の大幅な軽減が可能 防除（10a、中山間地域） 従来：2時間 導入後：12分（90%削減） 	本体：800～3,000千円 バッテリー：75～250千円 /1セット 講習：250千円
選果	 <p>プレ選果システム</p> <ul style="list-style-type: none"> プレ選果システムの利用により家庭選果の作業時間を削減 家庭選果 従来：27時間 導入後：0時間（100%削減） 	プレ選果システム 利用料：30千円（10aあたり）
予措貯蔵	 <p>予措・貯蔵システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫物を即販売でなく、需要に応じて出荷できるよう予措・貯蔵システムを活用して行く。 従来：5.0時間 導入後：0.5時間（90%削減） 	本体：3,000～10,000千円 電気代：30～200千円

7. びわ

現状と課題	目指すべき姿
本県のびわは、担い手の高齢化が急速に進んでおり、出荷量が減少している。また、腐敗果の混入などが問題になっており、防除作業などの省力化や出荷量の増加と品質の安定が求められている。	ドローンによる防除・運搬による省力化や、非破壊センサーを用いた腐敗果の混入防止などを図り、出荷量の増加と品質の保証を図ることによる本県産びわのブランド力の向上

作業	導入する技術とその効果	必要経費
収穫予測	 <p>気象観測システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象観測システムを活用した収穫期の予測 収穫期の予測 従 来：予測無し 導入後：産地毎の予測誤差3日以内 	本体：120千円 バッテリー等： 10千円
防除	 <p>ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローン防除により、急傾斜地での防除作業の負担軽減と作業時間の大幅な軽減が可能 防除（10a、中山間地域） 従 来：2時間 導入後：12分（90%削減） 	本体： 800～3,000千円 バッテリー： 75～250千円 /1セット 講習：250千円
運搬	 <p>ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローンによる収穫物の運搬。急傾斜地での運搬作業の負担軽減と作業時間の短縮が可能 運搬（急傾斜地域） 従 来：徒歩、車両運搬 導入後：運搬時間45～94%削減 	防除用ドローンと汎用
選果	 <p>スマート選果システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 選果システムの利用により等階級、果実糖度、果実腐敗の判別が可能。品質区分が可能になり、ブランド率が向上 従 来： 導入後：ブランド率10%向上 	選果・選別経費： 150千円 （10a 当たり）
選別	 <p>プロジェクションマッピングによる選果表示</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクションマッピングにより選果結果を表示。選別、出荷容器詰めが簡素化、作業時間が短縮 選果・選別時間 従 来：35時間 導入後：0時間（全労働時間10%削減） 	選果・選別経費： 150千円 （10a 当たり）